

えむかえがわ
江迎川水系河川整備基本方針

平成 30年 3月

長 崎 県

江迎川水系河川整備基本方針

目 次

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	1
(1) 江迎川流域の概要	1
(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針	4
1) 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項	4
2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項 並びに河川環境の整備と保全に関する事項	4
3) 河川の維持管理に関する事項	5
2. 河川の整備の基本となるべき事項	6
(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項	6
(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項	6
(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項	7
(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関する事項	7

<参考図>

江迎川水系流域概要図

1. 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

(1) 江迎川流域の概要

江迎川は、長崎県佐世保市に位置し、その源を佐世保市吉井町の合戦原（標高 389m）に発し、南に流下した後流れを西に変え、松浦鉄道及び国道 204 号と並行しながら流下します。その後、山の田川と合流した後北方向に流れを変え、蛇行しながら国道 204 号、松浦鉄道と数回交差し嘉例川と合流して、河口の江迎湾に注ぐ流域面積約 31.5km²、幹川流路延長約 9.7km の二級河川です。

流域の気候は、西海型気候に分類され、対馬海流（暖流）の影響を受ける温暖な気候となっています。年平均気温は約 16℃、年平均降水量は約 2,000mm であり、梅雨や台風の影響を受けるため、6月から9月の降水量が多くなっています。

流域の地形はシイ・カシ等の広葉樹林、スギ・ヒノキ等の針葉樹林を中心とした山地が大半を占めており、河川沿いは谷底平野となっています。江迎川中流左岸にはいわゆる北松型地すべりの鷲尾岳地すべりが位置しており、河口部の左岸側は干拓地となっています。

流域の地質は、佐世保層群に属する含炭第三紀層が広く分布し、かつては佐世保炭田（北松炭田）の中心地域でもありました。これら第三紀層を被覆して厚い玄武岩が発達し、溶岩台地を形成しています。また江迎川中・下流部には、転石まじりの砂質粘土により埋積された沖積低地が発達しています。

流域が位置する江迎地区は古くから交通の要衝であり、江戸時代には平戸藩により江迎本陣（藩主が宿泊した宿舎）が置かれ、平戸街道の宿場町として栄えました。また、その後は明治以降の石炭産業で発展しましたが昭和 42 年には全て閉山し、現在は農業が中心です。流域の土地利用は、その多くが山地であり河川沿いの低平地で主に水田利用がなされています。宅地は、宿場町であった下流部や、炭鉱で栄えた上流部に分布し、流域内人口は約 4,550 人となっています。

江迎川の治水・利水・自然環境及び河川利用状況の概要は以下に示すとおりです。

① 治水の概要

江迎川流域では、昭和 42 年の 7 月豪雨、昭和 47 年の断続した豪雨や台風、平成 18 年の豪雨及び台風 13 号など、集中豪雨や台風の大雨により家屋・農地の浸水被害が相次いで発生してきました。

このため江迎川では、下流部の深江橋～嘉例川合流点において昭和 63 年に局部

改良事業に着手し、河道の整備を行いました。

これまでの治水対策により、江迎川では治水安全度の向上が図られたものの、洪水による被害を全川にわたり防止するまでには至っていないのが現状であり、更に治水安全度の向上を図る必要があります。

② 利水の概要

江迎川の河川水は、江迎町の上水道のほか、農業用水として 9 か所の堰により取水し利用されています。近年、これらの水利用に著しい影響を与えるような渇水被害は発生していません。

③ 自然環境および河川利用状況

江迎川の源流から岩下橋（8 km 付近）に至る上流部は、河床勾配がきつく山地溪流の様相を呈しており、岩下橋から 9 km 付近までは住宅地、これより上流はシイ・カシ萌芽林などの山林で占められています。河道内の水際や落差工上流の砂礫には、ジュズダマ、アキカサスゲ等の単子葉草本群落^{たんしようそうほんぐんらく}が分布しており、キセキレイやセグロセキレイなど昆虫類を捕食する鳥類、河川周辺ではテンやタヌキなど哺乳類の生息が確認されています。また最上流域には「潜竜ヶ滝公園」^{せんりゅうがたき}が整備され、清涼感のある観光地として人々に親しまれています。

三浦ふれあい橋（2 km 付近）から岩下橋にかけての中流部は、川沿いに水田が多く広がるものの一部区間に住宅地がみられ、また山付き区間も長く、まとまった面積の河畔林が分布しています。農業用取水堰も多く、湛水部にはカモ類やサギ類、カイツブリのほかカワセミなども確認されています。河床の礫の隙間などには、ミナミテナガエビ（準絶滅危惧 NT：長崎県）、オナガサナエ（絶滅危惧 I B 類 EN：長崎県）等のほか、ニホンウナギ（絶滅危惧 I B 類 EN：環境省、情報不足 DD：長崎県）、シマヨシノボリ、オオヨシノボリ（準絶滅危惧 NT：長崎県）等が確認され、淵ではギンブナやカワムツが群れる様子がみられます。流れが緩やかな水際には、コシボソヤンマ（準絶滅危惧 NT：長崎県）、オジロサナエ（絶滅危惧 II 類 VU：長崎県）、コヤマトンボ（準絶滅危惧 NT：長崎県）等のヤゴをはじめ、コバントビケラ、モンキマメゲンゴロウ、ドンコ等が潜んでいます。また高岩橋上流には景勝地「高巖」^{たかいわ}があり、松浦鉄道からも眺めることができます。

河口から三浦ふれあい橋までの下流部は、河床勾配が緩く感潮区間となっており、川幅も広くなります。河口部では、ミサゴ（準絶滅危惧 NT：環境省、準絶滅危惧 NT：長崎県）や、カワウが生息し、江迎大橋周辺や嘉例川合流点付近ではアサクサノリ（絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN：環境省、絶滅危惧ⅠB類 EN：長崎県）が密生している箇所があります。干潮時に広く出現する礫干潟では、ウミニナ（準絶滅危惧 NT：環境省、絶滅危惧Ⅱ類 VU：長崎県）などの貝類や、ハクセンシオマネキ（絶滅危惧Ⅱ類 VU：環境省、準絶滅危惧 NT：長崎県）などの甲殻類が生息しています。嘉例川合流点上流にはウラギク（準絶滅危惧 NT：環境省、準絶滅危惧 NT：長崎県）等の塩沼植物^{えんしゅうしょくぶつ}が生育するほか、カブトガニ（絶滅危惧Ⅰ類 CR+EN：環境省、絶滅危惧ⅠB類 EN：長崎県）のつがいの生息も確認されています。1.5km 付近の蛇行部は、オシドリ（情報不足 DD：環境省、準絶滅危惧 NT：長崎県）やマガモの集団越冬地として利用され、江迎橋周辺では、魚類ではトビハゼ（準絶滅危惧 NT：環境省、絶滅危惧Ⅱ類 VU：長崎県）、底生動物ではタケノコカワニナ（絶滅危惧Ⅱ類 VU：環境省、絶滅危惧ⅠB類 EN：長崎県）などが確認されています。

水質に関しては、公共用水域のA類型（BOD 2mg/L 以下）に指定されています。環境基準地点である北平橋地点（河口から約 2.2 km）の近年 10 ヶ年の BOD75%平均は 0.9mg/L であり、最高値でも 1.3mg/L（H22 年度）と基準値を満足し、良好な水質となっています。

(2) 河川の総合的な保全と利用に関する基本方針

江迎川の整備にあたっては、安全・安心で快適な地域づくりをめざし、佐世保市の社会・経済の発展に係わる諸計画（佐世保市総合計画等）との調整を図りながら、水源から河口まで一貫した計画のもとに河川の総合的な保全と利用を図っていきます。

またその際、地域へ種々の河川情報を提供するとともに、河川に対する要望の集約、河川整備・保全に係わる取り組みの促進、河川の維持に係る取り組みの支援を行い、地域住民と連携した川づくりを行います。

1) 洪水、高潮等による災害の発生防止又は軽減に関する事項

江迎川においては、想定氾濫区域内の状況、県内バランス等を考慮し、計画規模の降雨により発生する流量を安全に流下させることのできる整備をめざします。

また、整備途上における施設能力以上の洪水や計画規模を超過する洪水等に対しては、洪水による被害を最小限に抑えるために、関係機関と連携して警戒避難及び情報連絡体制の整備等のソフト対策を総合的に実施します。さらに、災害に強い地域づくりのため、土地利用計画との調整を行うなど、流域一体となった取り組みを推進します。

2) 河川の適正な利用及び流水の正常な機能の維持に関する事項並びに河川環境の整備と保全に関する事項

河川水の利用に関しては、地域住民や佐世保市等関連する他行政機関との綿密な連携のもとに合理的な水利用の促進等、適正な水利用を図ることにより流水の正常な機能の維持に努めます。

また河川環境の整備と保全に関しては、非感潮域では、河畔林や水際植生、河床の礫などの保全、感潮域では、アサクサノリのほか、ウラギクなどの塩沼植物、カブトガニ、ハクセンシオマネキなどの甲殻類、タケノコカワニナなどの貝類をはじめとする多くの動植物の生息・生育・繁殖の場である干潟、汽水環境の保全に努めます。さらに、地域住民が水に親しめる場としての良好な河川空間整備を図ります。

3) 河川の維持管理に関する事項

河川の維持管理に関しては、災害の発生防止、河川の適正な利用、流水の正常な機能の維持及び河川環境の整備と保全の観点から、その機能を十分に発揮させるため適切に行います。

河川管理施設については、河川の巡視及び点検を行い、亀裂・陥没等の異常がないかを確認し、異常が確認された場合には、必要に応じてその補修工事を実施します。

2. 河川の整備の基本となるべき事項

(1) 基本高水並びにその河道及び洪水調節施設への配分に関する事項

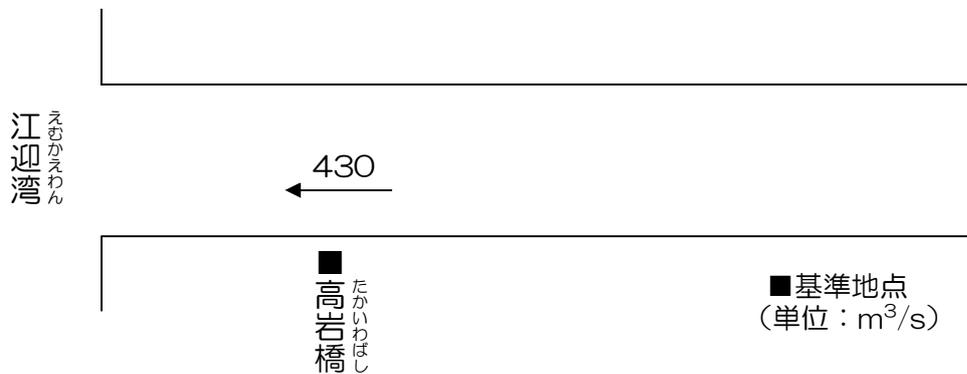
基本高水は、年超過確率 1/50 の規模の洪水とし、そのピーク流量は、基準地点高岩橋（河口から約 2.6km）において 430 m³/s と設定し、これを河道へ配分します。

基本高水のピーク流量等一覧表（単位：m³/s）

河川名	基準地点	基本高水のピーク流量	洪水調節施設による調節流量	河道への配分流量
江迎川	高岩橋	430	0	430

(2) 主要な地点における計画高水流量に関する事項

江迎川における計画高水流量は、基準地点高岩橋において 430m³/s とします。



江迎川計画高水流量配分図

(3) 主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る川幅に関する事項

本水系の主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係る概ねの川幅は次のとおりとします。

主要な地点における計画高水位及び計画横断形に係わる概ねの川幅一覧表

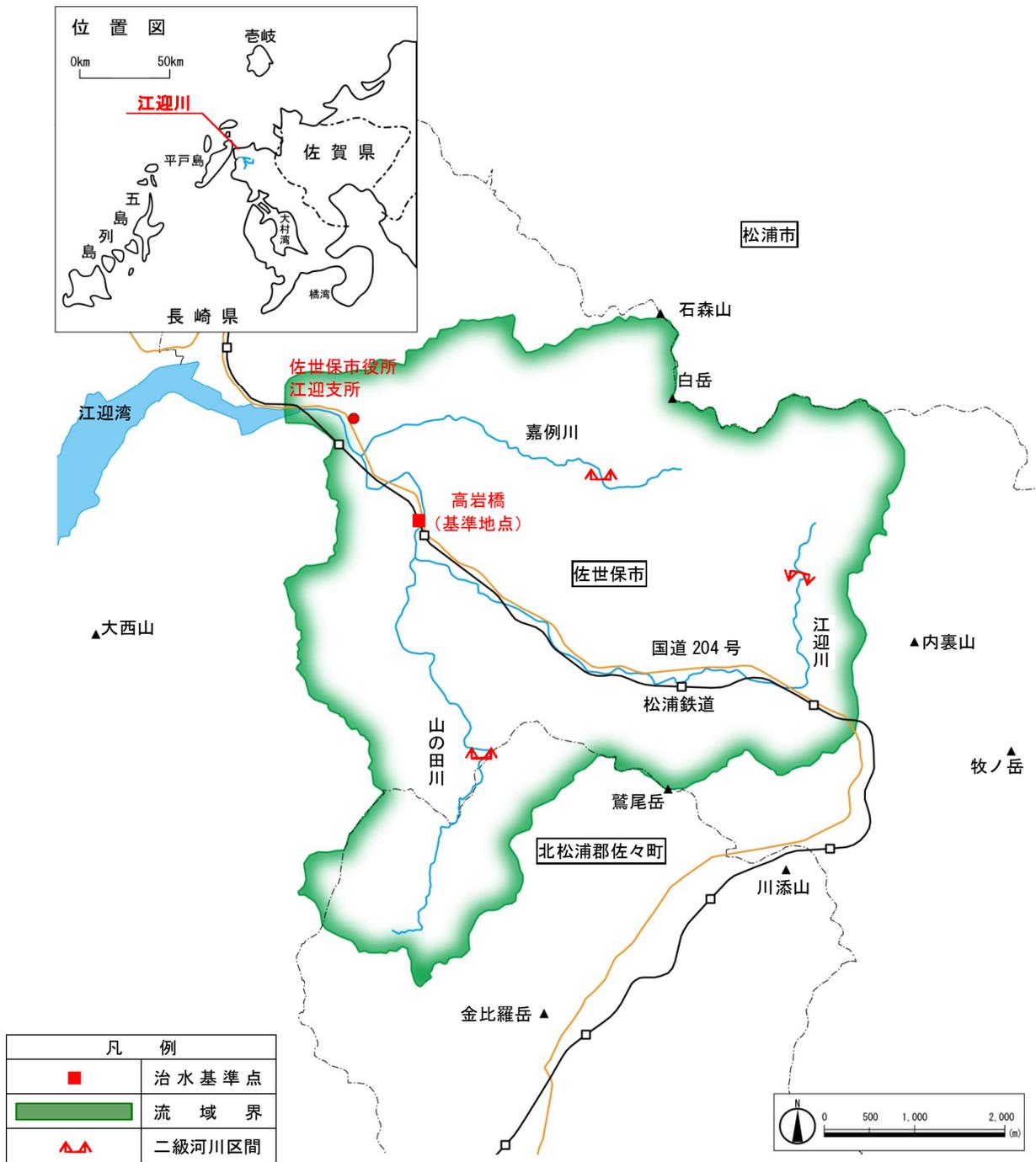
河川名	地点名	河口からの距離 (km)	計画高水位 (T.P.m)	川幅 (m)	摘要
江迎川	高岩橋	2.6	+7.94	30	基準地点

(注) T.P. : 東京湾中等潮位

(4) 主要な地点における流水の正常な機能を維持するため必要な流量に関する事項

江迎川の河川水は主に流域内の水田約 42ha での農業用水、江迎町の上水道用水として利用されています。

流水の正常な機能を維持するために必要な流量に関しては、動植物の保護、流水の清潔の保持等を考慮のうえ、今後必要に応じて調査・検討を行います。



参考図 江迎川水系流域概要図